

1. 学校名 飯田市立飯田西中学校 対象 全校 210名

2. 探究課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

(1) 活動テーマ 飯田西中SDGs ～持続可能な社会に向けて自分にできることを考えよう～

(2) 目 標

- ①持続可能な社会の構築について理解する。
- ②SDGsについて理解を深め、自分事としてできる取り組みを考える。
- ③学校で学んだことを表現・発信することを通して、SDGsへの協力者を増やし、地域社会と連携しながら、SDGs目標達成を目指す。

(3) ESDの視点、育成する資質・能力

①構成概念

- 多様性 (多種多様な現象が起きていること)
- 相互性 (関わりあっている)
- 有限性 (限りがある)
- その他 ()
- 公平性 (一人ひとりを大切に)
- 連携性 (互いに連携・協力すること)
- 責任制 (責任を持って)

②育成する資質・能力

- 批判的に考える力
- 未来像を予測して計画を立てる力
- 多面的・総合的に考える力
- コミュニケーションを行う力
- 他者と協力する力
- つながりを尊重する態度
- 進んで参加する態度

(4) 関連するSDGs



- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなに。そしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤を作ろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任、つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさも守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

(5) 探究課題・活動実践の概要

- 1 生徒会SDGs
- 2 新聞よむよむタイム
- 3 一人一探究
- 4 家庭科の授業
- 5 池上 彰 氏と学ぶSDGs

3. 流れ（指導計画の概略）

<家庭科授業>

【課題設定】

自分たちの消費行動の課題から、「気温上昇を1.5度以内に抑えるために、地球に住む一員としてどんなことができるのか」の問いを元に、クラスごと題材を通して追究するテーマ（課題）を決める。

【情報収集】

消費生活が環境に及ぼす影響や国や県・社会をあげて取り組んでいる環境施策を知る。また、飯田市職員から脱炭素の取り組みや、エシカル消費の取り組みを聞く。

【情報の整理】

学びの足跡の記述や毎時間蓄積した学びキーワードを活用し、クラスの学習テーマ（課題）に対する答えをまとめる。

【まとめ】

持続可能な社会の構築について学んだ知識とSDG sの取り組みと関連させた「消費生活・環境SDG s すごろく」を一人1枚またはグループで1枚作成。自分たちで遊ぶだけでなく地域に発信（市公共施設へのすごろく設置・環境イベントでの掲示・体験ブースの設置、環境イベントでの実践発表）した。

*1年生も同じ探究サイクルで「食を取り巻く課題」について探究。学習のまとめとして「食品ロス削減すごろく」を作成し地域に発信。その後、食品ロス削減ポスター・域産域消（地産地消）ポスターを作成し、地区の文化祭や市公共施設に掲示した。

4. 効果・反応・所感

- (1) 「一人ひとりの毎日の選択や行動が持続可能な未来につながっている。これまで学んできたことが全てSDG sとつながっていると思うとすごいなと思った。授業で学んだことを私のこれからの生活で生かし、持続可能な社会を創る一員として行動していきたい。」などの感想が見られるなど、SDG sと家庭科の授業内容を関連付けたことで、「持続可能」の視点で自分の生活を見返したり、学んだりすることができた。
- (2) 市や県の取り組みを環境への取り組みを知り、消費者・飯田市・長野県・日本・地球に住む一員という立場を自覚しながら考えさせたことは、自分事として考える際の大事な視点である。
- (3) 環境イベント『南信州環境メッセ』での発表やSDG s すごろくの掲示・設置に対し、飯田市長やゼロカーボン社会の実現に向けて取り組んでいる企業のみなさん、消費者団体の方々から、「すごろくに書かれた内容素晴らしい!」、「家庭科の授業で学んだこととSDG sが関連付けられていて、よい学習をしていますね!」とのお褒めの言葉をいただいた。すごろく作成と展示の目的は飯田市の取り組みへの参画でもあり、行政や企業に中学生が環境問題に関心を持っていることや、協力していきたいという思いを発信できる機会となった。
- (4) 市内の中学校代表が集まる学習会（結いジュニアリーダー）や池上 彰氏が来校して行われた「SDG s 特別授業」では、家庭科で扱う内容以外のSDG sの目標に関連した内容を扱うことができ、SDG s すごろく活用の可能性を広げる機会となった。
- (5) 「信州SDG s アワード2023」受賞、ジャーナリスト池上 彰氏とのSDG s 特別授業、長野朝日放送でのSDG s 特別授業放映、地元新聞での西中SDG s すごろく掲載など、家庭科の授業を始めとする様々な取り組みの成果が認められ、形となって表れたのは大変嬉しいことである。
- (6) 環境イベントでの発信、食品ロス削減ポスターを見たり、テレビ放映を視聴されたりした地域の方から、賞賛の声が寄せられ「SDG sの西中」との認識されるようにまでなった。今後も、SDG sのリーダー校として様々な取り組みを行っていきたい。
- (7) 信州ESD/SDG s 成果発表会&交流会には初めて参加させていただきましたが、他校の取り組みから学ぶことが多く、本校の来年度の取り組みに生かしていきたいと思えるものもありました。高校の取り組みを聞く機会はほとんどなく、高校生の姿や運営スタッフの大学生の姿を拝見できたのは、本校生徒のキャリア発達の刺激となりました。よい機会を与えていただき、ありがとうございました。
- (8) 交流会で依頼がありました西中SDG s すごろくは飯田西中学校ホームページ（2月）に掲載します。ご活用ください。

5. 指導方法・体制の工夫（協力者や資源）

（1）指導方法

家庭科授業内で実施

（2）協力者

- ・ 飯田市ゼロカーボンシティー推進課
- ・ 飯田市男女共同参画課
- ・ 飯田市消費生活センター
- ・ 飯田市公民館、学区内公民館